

信州大学医学部附属病院 呼吸器・感染症・アレルギー内科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

平成 28 年 2 月 2 日

「特発性間質性肺炎合併肺癌患者の内科治療」に関する臨床研究(後ろ向き観察研究)を実施しております。

信州大学医学部医の倫理審査委員会の審査による医学部長の承認を得て、調査を行っています。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	3338
課題名	特発性間質性肺炎合併肺癌患者の内科治療に関する後ろ向き調査
研究機関	信州大学医学部附属病院(虎の門病院、京都大学附属病院等)
研究責任者	信州大学医学部附属病院 (呼吸器・感染症・アレルギー内科 山本 洋)
研究実施期間	平成 28 年 2 月 2 日～平成 30 年 12 月 31 日
研究の意義、目的	<p>間質性肺炎は徐々に肺活量が減少し呼吸困難をきたす慢性疾患ですが、しばしば原発性肺癌が合併します。間質性肺炎を合併しない肺癌患者さんと比較して、抗癌剤などの治療では使用禁忌(投与してはいけない)とされる薬剤もあります。手術後や抗癌剤治療、放射線療法中に間質性肺炎が急性増悪を起こし、重篤な合併症になる場合があります。</p> <p>このように間質性肺炎に合併する肺癌の病状は複雑で、標準的治療がまだ確立していません。私たちは間質性肺炎の患者さんを多数診療している全国の主要な施設と共同で、上記の期間に間質性肺炎合併肺癌と診断した患者さんの臨床データを収集分析し、この疾患の有効な治療法を検索することを目指しています。</p> <p>これらの臨床データは通常の診療で過去に記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。</p>
対象患者様	平成 24 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日の期間に当院で特発性間質性肺炎合併肺癌について医療を受けられた方。
利用カルテ情報	診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果、画像データなど
その他	この研究は、びまん性肺疾患に関する調査研究班を母体として、虎の門病院に事務局をおく多施設共同研究です。

既存の検体と診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。

当院外へお名前や個人情報がでることはありません。

必要な情報のみを集計します。研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌で発表しますが、患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究に検体を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、下記のお問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

この研究でご自分の検体、診療記録の利用をお断りになっても、通常の診療などで不利益を受けることはありません。上記の研究期間中であれば、いつでもお断りいただけます。

お問い合わせ先: 信州大学医学部附属病院

担当者 呼吸器・感染症・アレルギー内科 山本 洋 (電話: 37-2631)